

## 日本株ロング・ショート・ストラテジー・ファンド 愛称:「とこしえ」

追加型投信/国内/株式/特殊型(ロング・ショート型)

作成基準日:2022年1月31日

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

ファイブスター投信投資顧問株式会社

## 運用実績等

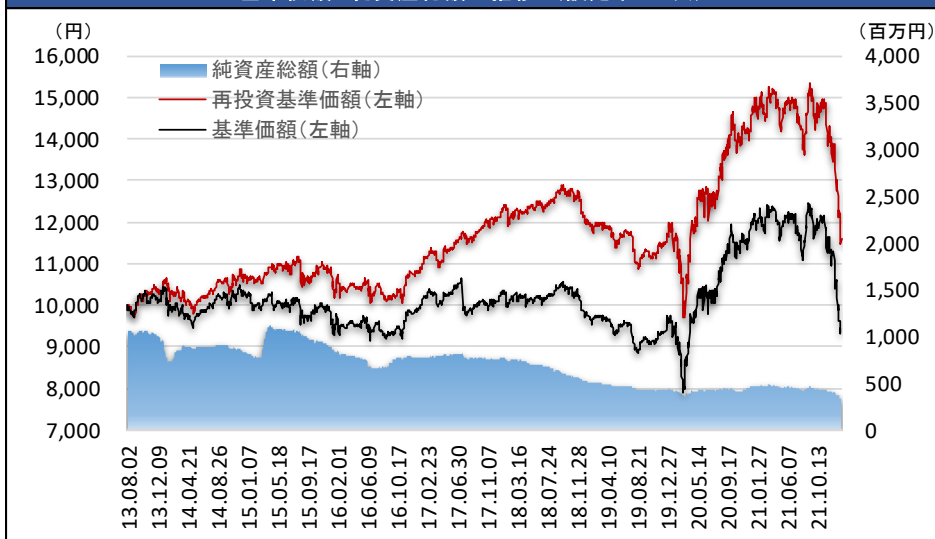
## ファンド概要

設定日	2013年08月01日
信託期間	2023年10月30日
決算日	毎年1月,4月,7月,10月の各28日(年4回)
信託報酬率	年 1.155% (税抜 年 1.05%)
基準価額	9,444円
純資産総額	330,295,604円

※投資対象とする外国投資信託証券にも別途信託報酬等がかかり、信託報酬の実質的な負担は年2.629%程度となります。

※決算日が休業日の場合は翌営業日となります。

## 基準価額と純資産総額の推移 (設定来:日次)



※基準価額は、実質的な信託報酬(年率概算(税込)2.629%)控除後の値です。

※再投資基準価額の推移は、税引前分配金を全額再投資したものととして算出しているため、実際の受益者利回りとは異なります。

## 期間収益率

過去1ヶ月	-16.45%
過去3ヶ月	-21.20%
過去6ヶ月	-20.06%
過去1年	-20.88%
過去3年	-2.63%
設定来	+16.04%

※税引前分配金を全額再投資したものととして計算しています。

## 資産構成

ケイマン籍外国投資信託(円建て) 「とこしえ日本株ロング・ショート戦略ファンド」	97.60%
ファイブスター・マネープール・マザーファンド 2	0.67%
現金等	1.73%
合計	100.00%

※市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行えない場合があります。

※ファイブスター・マネープール・マザーファンド2の運用基本方針は、安定した収益の確保をめざして運用を行います。また、投資対象は、国内発行体の公社債、転換社債、ユーロ円債、資産担保証券ならびにCD、CP、コールローン等の国内短期金融資産を主要投資対象とします。

※追加設定の計上タイミングと投資対象の購入処理等のタイミングのずれ等により、比率が100%をこえる場合があります。

## 分配実績(1万口当たり、税引前)

設定来合計	2,100円
第32期(2021年07月28日)	0円
第33期(2021年10月28日)	0円
第34期(2022年01月28日)	0円

※直近3期分(1万口当たり税引前の金額)

## ハイ・ウォーターマーク

次回計算期間の終了日まで	12,039円	※決算日前営業日の公表基準価額が翌期のハイ・ウォーターマークに更新されます。
--------------	---------	--

※決算日に収益分配金が発生した場合には、決算日前営業日の公表基準価額から収益分配金を控除した価額が、翌期のハイ・ウォーターマークとなります。

※信託報酬のほか、実績報酬を設けており、超過収益が発生した場合には収益の5.5%(税抜5%)が各決算日および償還時に支払われます。なお、実績報酬は超過収益に応じて発生するため、実質的な数値を表示することはできません。

※計算期間中にファンドの解約をした場合には、解約価額(基準価額公表から信託財産留保額を控除した額)が既に実績報酬を含んで算出されておりますので、追加で実績報酬が発生することはありません。



あなたに最適な  
資産運用を。

ファイブスター  
投信投資顧問

※ 後述の「当資料のご留意点」を必ずご参照下さい。

AB311138-MR220131C

1/11ページ

## 日本株ロング・ショート・ストラテジー・ファンド 愛称:「とこしえ」

追加型投信/国内/株式/特殊型(ロング・ショート型)

作成基準日:2022年1月31日

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

ファイブスター投信投資顧問株式会社

## 投資対象の投資信託証券の運用概況

## ケイマン籍外国投資信託(円建て)「とこしえ日本株ロング・ショート戦略ファンド」

## ファンドの特色

- 投資信託証券への投資を通じて、主としてわが国の金融商品取引所に上場する株式の買建て(ロング)と売建て(ショート)を行い、株式市場の変動による影響を軽減しつつ、信託財産の中長期的な成長を目指します。
- 投資銘柄の選定にあたっては、ボトムアップ・アプローチにより投資銘柄を選定します。

エクスポージャー	ロング・ポジション	ショート・ポジション
L/S エクスポージャー	96.88%	-1.15%
グロス・エクスポージャー	98.03%	
ネット・エクスポージャー	95.73%	

流動性	ロング・ポジション	ショート・ポジション
1日	100.00%	100.00%
3日間	100.00%	100.00%
5日間	100.00%	100.00%

※流動性は、25日平均出来高の20%を売買することを前提として、保有するポジションを全て解消した場合にかかる目安を表しています。

保有銘柄数	ロング・ポジション	ショート・ポジション
184 銘柄	182 銘柄	2 銘柄

※保有銘柄数は、組入れの株式と上場投資証券の数を表示しています。

時価総額別	ロング・ポジション	ショート・ポジション
5,000億円超	42.76%	0.00%
2,000億円～5,000億円	18.77%	-0.53%
500億円～2,000億円	20.96%	0.00%
200億円～500億円	7.81%	-0.51%
200億円以下	6.58%	0.00%
株価指数先物等	0.00%	-0.11%

## 銘柄別組入れ上位5銘柄

ロング・ポジション						ショート・ポジション	
No.	銘柄コード	銘柄名	業種等	市場	純資産比	業種等	純資産比
1	7071	アンビスホールディングス	サービス業	東証J	2.70%	小売業	-1.04%
2	6861	キーエンス	電気機器	東証1	1.78%	株価指数先物等	-0.11%
3	1605	INPEX	鉱業	東証1	1.76%	---	---
4	6367	ダイキン工業	機械	東証1	1.46%	---	---
5	4680	ラウンドワン	サービス業	東証1	1.27%	---	---

※上記内容は、組入銘柄の紹介を目的として作成しましたが、記載銘柄の推奨を行うものではありません。

※上記内容は、作成基準日における情報を元に作成していますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。

※当ファンドでは銘柄入替を行うことがあるため、現在の銘柄と異なる場合があります。

※業種については、東証33分類をもとに分類しております。



あなたに最適な  
資産運用を。

ファイブスター  
投信投資顧問

※ 後述の「当資料のご留意点」を必ずご参照下さい。

AB311138-MR220131C

2/11ページ

## 日本株ロング・ショート・ストラテジー・ファンド 愛称:「とこしえ」

追加型投信/国内/株式/特殊型(ロング・ショート型)

作成基準日:2022年1月31日

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

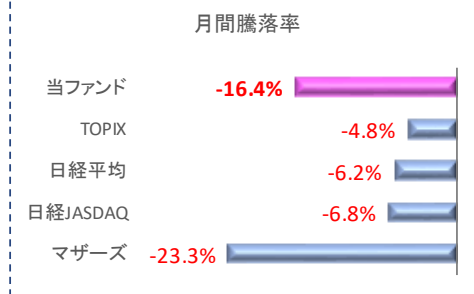
ファイブスター投信投資顧問株式会社

## マンスリーコメント

## 市況概況

日本株については、日経平均株価-6.2%、TOPIX-4.8%、中小型株については、東証マザーズ指数-23.3%、日経JASDAQ平均-6.8%と、全面安となりました。

半導体・電子部品に代表されるグロース株と、東証マザーズ指数に代表される中小型株の不振が際立ち、東証マザーズ指数に至っては12月からの2か月で30%近くの暴落という惨状を呈しました。ハーディング銘柄（機関投資家からの評価が高い銘柄）の下落も相俟って、TOPIXや日経平均株価が示す下落幅よりも遥かに印象が悪い月となりました。



※上記記載の株価指数は配当込み指数ではありません。

## 市況概況②

本ファンドでは、12月4週目末には、基準価額最高値への到達を意識できる位置にありました。しかし、12月5週目から変調を来とし、1月はこれまであまり経験したことがない不調が継続する事態になりました。その主な要因は、以下の4つです。

- ①再生可能エネルギー事業者のレノバが、秋田県由利本荘市沖における洋上風力発電案件を失注したこと
- ②年始から極端なバリュー相場（グロース売り）が続いたこと
- ③1月FOMC（米連邦公開市場委員会）前後のFRB（連邦準備制度理事会）金融引き締めに対する警戒感拡大
- ④東証マザーズ指数に代表される中小型株やグロース株の大幅下落

まず①については、本ファンドでもレノバ自体を保有していて、12月に直近価格から5割の損失を被りました。しかし、これだけであれば大した要因ではありませんでした。本件は、それよりも遥かに重い禍根を市場に残すことになりました。第一に、今回の3つの洋上風力発電案件について三菱商事を中心とするグループが勝ち取ったことで、レノバのように経営力や人材の質などの点で極めて優秀な会社であっても、それが「単一事業しか展開していない中堅中小企業であれば大企業には勝てない」ということを世に示したからです。裏を返せば、1月から起きている大型バリュー株相場の一端に、この大企業有利の状況を鮮明に示した本件が関わっている状況も否定できない可能性もあります。これにより、基本的に単一事業から構成される中小型株の今後の成長可能性に大きな疑問を湧き起こしました。その現れとして、12月第4週に底を打ちかけた中小型株が、第五週に早くも失速し、後述の年明けの1月の中小型株大不振につながっていききました。第二に、「再生可能エネルギー事業」という今後の有望なサブセクターが、消失の危機に瀕したことです。異様とも言えるほどの安値で三菱商事が勝利したことで、ブルーオーシャンと思われていたこのサブセクターは、一気にレッドオーシャンに転落するリスクに見舞われました。



あなたに最適な  
資産運用を。

ファイブスター  
投信投資顧問

※ 後述の「当資料のご留意点」を必ずご参照下さい。

AB311138-MR220131C

3/11ページ

## 日本株ロング・ショート・ストラテジー・ファンド 愛称:「とこしえ」

追加型投信/国内/株式/特殊型(ロング・ショート型)

作成基準日:2022年1月31日

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

ファイブスター投信投資顧問株式会社

## マンスリーコメント

次に上記②については、年始から明確に「大型バリュー株」優位の相場になりました。クリスマス休暇入りする12月にポジションを大きく落とした投資家のポジション再構築の中で、ポジション組み増しの大半が大型バリュー株に向けられたと推測します。ちなみに、「バリューからグロース」や「グロースからバリュー」という転換は、時々起こることであり、その流れへの対処は、ある程度の痛みは被りながら概ね可能と考えています。ただ、1月の相場の特異な点は、投資家が年始に大型バリュー株買いでポジションを積み増した後に、中旬はグロース・中小型株を売って大型バリュー株買いを継続し、月後半には後に述べるFOMC前の投資家のセンチメント悪化で、投資家が全体のポジションを主にグロース・中小型株売りにより落としたことです。つまり、年始直後のほんの数日を除いては、ほぼ毎日、グロース・中小型株売りが続いたのです。

上記③については、1月27日のFOMCを控え、15日からのブラックアウト入りから、投資家の間でFRBのタカ派変換への懸念が急速に強まり、米国株を中心としてリスクオフとも思えるほどの弱気相場に入ったことです。1月の前半までは「3月に25bp利上げ、年に3回から4回の利上げ、その後しばらくしてバランスシート縮小開始」がコンセンサスであったものが、次第に「3月に50bp利上げ、FOMC毎に毎回利上げ、利上げと概ね同タイミングでのバランスシート縮小」といった急速な引き締め懸念が台頭してきました。一方で、米国専門家の間では、市場が懸念するような引き締めにはならないという見方が大半だったと認識しています。その中で開催されたFOMCは、FRBパウエル議長が3月の50bp利上げや会合の度に毎回利上げという可能性も否定しない、タカ派的な色彩の濃い形になりました。それが、市場の混乱を助長する形になりました。

上記④については、前述のレノバの件やバリュー相場入りの中で、中小型株は売り一辺倒になりました。12月の大量の新規上場を受けて調整した中小型株は、バリュエーション的に説明可能な水準に入った銘柄も散見されたこともあり、1月は落ち着きを取り戻す可能性も十分にありました。しかし、年始からのバリュー相場と世界的株安の中で、中小型株は1月に12月以上の下げを演じました。加えて、半導体・電子部品・情報通信株に代表される高バリュエーションのグロース株も叩き売られました。折しも、半導体関連株は、今年中盤頃から調整局面入りするとの見方が強まり、バリュエーションの高低にかかわらず半導体に関連しているというだけで売られることになりました。



あなたに最適な  
資産運用を。

## 日本株ロング・ショート・ストラテジー・ファンド 愛称:「とこしえ」

追加型投信/国内/株式/特殊型(ロング・ショート型)

作成基準日:2022年1月31日

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

ファイブスター投信投資顧問株式会社

## マンスリーコメント

## 運用概況

今月の当ファンドの基準価額は、前月末比-16.45%の下落率（再投資基準価額ベース）となりました。

まず、月中の日本株の動きについては、月初では日経平均株価で29,000円から30,000円というレンジでの強含みの展開を予想していたのに対し、1月実績は、安値26,044円、高値29,388円、終値27,001円と、想定を大幅に下回る低調な推移となりました。

当月の日本株のセクター別パフォーマンスは、騰落率上位が、鉱業、保険、非鉄金属で、電気機器、サービス、精密がワーストパフォーマンスとなりました。ファクター的には、バリュー株優位、グロス株劣位が鮮明となり、大型株はグロス・バリューとも横ばい圏で推移しました。また、高配当利回り、低PBR（株価純資産倍率）、低PER（株価収益率）、高信用リスクの割安株が優位になる一方で、高PER、高PBR、高ROE（自己資本利益率）の劣位が顕著となり、典型的なバリュー相場を形成しました。

その中で、当ファンドでは、オミクロン株発生を2021年の最後のリスクファクターと捉え、かつ、12月の新規上場ラッシュを市場がこなしたと見なし、12月第4週において中小型株を中心に相場が底を打ったと判断しポジション構築を行いました。しかし、レノバの件で中小型株が弱含むのを見て、一旦中小型株の割合を落としましたが、かなりの痛手を被りました。それでも、その下落で中小型株はバリュエーション的な調整も進んだことから、年始から中小型株の保有割合の拡大の可能性も含めた強気のポジション構築を行うことを検討していました。

しかし年始は、強いバリュー相場が始まる中で、金融・保険・電鉄・自動車などのバリュー株の保有割合の拡大と中小型株やグロス株のポジション抑制を行いました。一方で、中小型株・グロス株とも中旬頃までには割安圏に入ったものも数多く見られたことから、時々それらの保有割合を微増させながら強気ポジションを維持しました。ショートサイドにおいては、株価水準が十分に低いという認識の下で、ポジション量を意識的に絞り、株価調整の確信度が高い小売りセクター等に的を絞った形を継続しました。これにより、ネットロング比率を高めに推移させました。しかし、FOMC（米連邦公開市場委員会）前の世界的株安とバリュエーションを無視した形での世界的な中小型・グロス株売りが続き、増やす度にすぐ撤退を迫られるという形で、防戦一方となりました。

とはいえ、FOMC前のFRB（連邦準備制度理事会）のスタンス変更への懸念については、市場でかなり悲観的なシナリオまで織り込みに入っていたことと、FRBが明確な方針を示す（FRBの方針の「透明化」）ことを予想して、その直後から急速に株価は戻すと考えていました。しかし、結果は、FRBパウエル議長が3月50bp利上げも、毎回の利上げも否定しないという「不透明性」が示されたことで、市場の動揺は収まらなくなりました。その中で、日本株は、利上げの当事国でもないのに、当事国の米国よりも大幅に下げるといふ毎度ながらの情けない状況を演じ、27日にも大幅に損失を計上しました。このような形で、1月は月を通じて、絶対値で大幅な損失を計上した上に、TOPIXや日経平均株価からも大きく劣後するという、これまでのファンドマネジャー人生でなかったほどの低パフォーマンスとなりました。

今から振り返れば、年始のバリュー株優位の動きと、継続的な中小型・グロス株売りと、FOMC前の世界的リスクオフの流れの中で、全体的に弱気のポジション構築（例えばキャッシュ比率増など）と中小型・グロス株売りの積極化を行うべきだったと反省をしています。

なお、1月相場の日本株に対するインプリケーションについて、「大木レポート（No.0146） <https://www.fivestar-am.co.jp/report/>」の中で、年始相場の日本株に与える5つのインプリケーションを記載する予定ですので、ご一読いただければと存じます。



あなたに最適な  
資産運用を。

ファイブスター  
投信投資顧問

※ 後述の「当資料のご留意点」を必ずご参照下さい。

AB311138-MR220131C

5/11ページ

## 日本株ロング・ショート・ストラテジー・ファンド 愛称:「とこしえ」

追加型投信/国内/株式/特殊型(ロング・ショート型)

作成基準日:2022年1月31日

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

ファイブスター投信投資顧問株式会社

## マンスリーコメント

## 今後の運用方針

今回のFOMCでFRBが事前予想の極限に近いところまでタカ派化したことで、市場ではしばらくは動揺が続く可能性があると考えます。しかし、FRBのタカ派変更自体よりも、FOMC前後に米国10年債の金利が約1.9%に達したことで米国株が調整した事態を感覚的に重く見えています。2018年の2月と10月に同金利が3%にタッチして世界的に株価が大きく調整しましたが、今の段階で株価調整につながりうる金利の臨界点は2%なのではないかと考えています。したがって、まずは、「米国10年債が2%に達しないことを前提とした積極運用」を継続して参ります。

個別では、ここまで述べてきたように、1月末にかけて国際優良銘柄が大きく調整し、願ってもない価格となっていて、これを拾わない手はないと思います。為替がドル円で115円まで円安が進んでいることも、高業績が続く日本の製造業にポジティブです。3Q決算を見ても、ここまではファナック、富士電機、新光電気工業、信越化学工業などの主要企業の決算が絶好調で、当面は衰える兆しがほとんど見つからない状態です。ここまで売られた半導体・電子部品株も積極的に組み入れて参ります。加えて、バリュー株と言われる中でも、「PER2倍で配当利回り10%」の海運株や、「来期減益でも配当維持で配当利回り7%から8%の鉄鋼株」など、どう考えても価格水準が不当に安い銘柄がそこかしこに転がっています。これが、「米国従属取引」、「バリュエーションを無視したファクタートレード」の帰結・弊害です。したがって、そのような割安株を積極的に拾う強気の運用を行って参ります。加えて、コロナ・ショック前の水準を大きく下回る「リオープン関連銘柄」が、オミクロン株の感染者数がピークを打つと予想される2月初旬から動意づく可能性も高いと考えており、有力な投資対象として考えています。

なお、全世界でこれだけの高いインフレ率に見舞われているということは、その余波が日本にも近いうちに押し寄せインフレ率が恒常的に2%に達する可能性は高いと思います。それは黒田氏が日銀総裁就任後初の事態であり、その際には日本の金利も上昇すると思われます。銀行を代表格とする金融株は投資対象として必須の地位に上昇すると考えます。

以上を勘案して、2月の日本株については、ドル円115円前後を前提に、まずは日経平均株価で26,500円から28,500円のレンジでの高値での推移を予想します。その後、3月末の配当落ちにかけて30,000円前後までの上昇を予想します。

その中で、本ファンドでは、基本的に「強気の運用」を継続して参ります。まずは、株価回復が大型株から始まるでしょうから、ロングサイドにおいては、大型株を中心にポートフォリオを構築します。ただし、中小型株や東証マザーズ指数の銘柄も、ここまで売り込まれると、戻りの確度や幅は場合によっては大型株よりも優位に大きいと思われる。したがって、時間の経過とともに、中小型株の保有割合をゆくりと拡大して参ります。一方、ショートサイドにおいては、株価水準が十分に低いことから、構造的停滞業種等を中心とした銘柄を精選してリスクを抑えた運用をして参ります。それによって、リターンを極大化を狙って参ります。



あなたに最適な  
資産運用を。

ファイブスター  
投信投資顧問

※ 後述の「当資料のご留意点」を必ずご参照下さい。

AB311138-MR220131C

6/11ページ

## 日本株ロング・ショート・ストラテジー・ファンド 愛称:「とこしえ」

追加型投信/国内/株式/特殊型(ロング・ショート型)

作成基準日:2022年1月31日

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

ファイブスター投信投資顧問株式会社

## 投資リスク等

## 基準価額の変動要因

**信託財産に生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。**

当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて値動きのある有価証券などに実質的に投資しますので、当ファンドの基準価額は変動します。

**したがって、受益者の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。また、投資信託は預貯金と異なります。**

当ファンドおよび当ファンドが投資する投資信託証券の基準価額の変動要因の主なものは、以下の通りです

当ファンドの基準価額の変動要因の主なものは、以下の通りです。

## 有価証券の株価変動リスク

当ファンドは、実質的に国内の株式等を主要投資対象としますので、当ファンドの基準価額は、当該株式等の価格変動の影響を大きく受けます。株式等の価格は、国内外の政治・経済・社会情勢の変化、発行企業の業績・経営状況の変化等により変動します。その影響により株式等の価格が下落した場合、当ファンドの基準価額が値下がりする要因になります。

## 「ロング・ショート戦略」固有のリスク

当ファンドが投資する外国投資信託は、株式の売建て(ショート)を行いますので、売建て(ショート)した株式の価格が上昇した場合にも当ファンドの基準価額にマイナスの影響を及ぼし、場合によっては、売建て(ショート)の特性上、損失が想定以上になることもあります(また、株式を売建て(ショート)するにあたり、借入れコストがかかります。)。当ファンドは、株式市場全体の動向から影響を抑制する運用を行います。その影響がなくなるわけではありません。また、買建て(ロング)、売建て(ショート)する株式のリターン動向について見通しを誤れば基準価額が下落する要因となり、場合によっては大幅に下落する場合があります。

## 信用リスク

有価証券の発行体において、経営不振、その他の理由により債務不履行が発生した場合、またはそうした事態が予測される場合等には、当該発行体が発行する有価証券の価格は大きく下落し、基準価額が値下がりすることがあります。

## 流動性リスク

組入る有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場規模の縮小や市場動向によっては、組入る有価証券が当初期待される価格での取引もしくは機動的な売買ができないことがあり、当ファンドの基準価額に悪影響を及ぼすことがあります。

## 解約による資金流出に伴うリスク

一部解約金の支払資金を手当てするために、当ファンドが投資する投資信託証券において、組入れている有価証券等を大量に売却する場合があります。この場合、市場規模や市場動向によっては、有価証券等を当初期待された価格で売却できないことがあり、当ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

※(ご注意) 以上は、基準価額の主な変動要因であり、変動要因はこれに限られるものではありません。

あなたに最適な  
資産運用を。

# 日本株ロング・ショート・ストラテジー・ファンド 愛称:「とこしえ」

## 追加型投信/国内/株式/特殊型(ロング・ショート型)

作成基準日:2022年1月31日

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

ファイブスター投信投資顧問株式会社

### ご留意点等

#### その他のご留意点

- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ制度)の適用はありません。
- 当ファンドが投資する外国投資信託においては、投資銘柄の選定に関して、国内の投資顧問会社から助言を受けます。このため、当該投資顧問会社の業務または財産の状況の変化、助言担当者の交代、その他の理由により、運用に支障が出る場合があります。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です

#### 分配方針

年4回(毎年1月、4月、7月および10月の各28日(休業日の場合は翌営業日))に決算を行い、収益分配方針に基づいて収益の分配を行います。

- 分配対象額の範囲は、経費控除後の利子・配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。
- 分配金額は、委託会社が基準価額水準・市場動向等を勘案して決定します。ただし、分配を行わないこともあります。
- 収益分配に充てず信託財産内に留保した利益については、特に制限を設けず、運用の基本方針に基づき運用を行います。

※運用状況により分配金額は変動します。※将来の分配金の支払い及びその金額について保証するものではありません。

#### 当資料のご留意点

- 本資料は、ファイブスター投信投資顧問株式会社で作成した販売用資料であり、法令に基づく開示書類ではありません。本資料に記載の過去の運用成績、運用内容は将来の運用成果、運用内容を保証あるいは示唆するものではありません。本資料は、原則として表示桁数未満を四捨五入しているため合計の数値とは必ずしも一致しません。本資料をご覧くださいにあたっては、「投資リスク」、「その他の留意点」、及び「分配方針」を必ずご確認ください。お申込の際は、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」を必ずご確認のうえ、お客様ご自身でご判断ください。





## 日本株ロング・ショート・ストラテジー・ファンド 愛称:「とこしえ」

追加型投信/国内/株式/特殊型(ロング・ショート型)

作成基準日:2022年1月31日

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

ファイブスター投信投資顧問株式会社

## お申込メモ

購入単位	1口または1円単位として販売会社が定める単位
購入価額	購入申込日の翌営業日の基準価額(1万口あたりで表示しています。)
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払いください。
換金単位	1口単位として販売会社が定める単位
換金価額	換金(解約)受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を差引いた価額
換金代金	原則として換金(解約)受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
申込締切時間	午後3時までで、販売会社が受け付けた分を当日のお申込み分とします。
購入・換金 申込不可日	以下の日においては、購入および換金(解約)のお申込みができません。 ・ロンドンもしくはダブリンの銀行休業日
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、1億口または1億円以上の換金(解約)請求は、正午までをお願いします。
購入・換金・申込受付の 中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金(解約)の受付を中止すること、および既に受付けた購入・換金(解約)申込みの受付を取消す場合があります。
信託期間	原則として2023年10月30日までです。(2013年8月1日設定)
繰上償還	投資する投資信託証券が存続しないこととなる場合は、信託を終了させます。また、次のいずれかの場合には、委託会社は、事前に受益者の意向を確認し、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了させること(繰上償還)ができます。 ・受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合 ・やむを得ない事情が発生したとき ・繰上償還することが受益者のために有利であると認めるとき
決算日	毎年1月、4月、7月および10月の各28日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年4回の決算時に、収益分配方針に基づいて収益の分配を行います。
信託金の限度額	信託金の限度額は1,000億円です。
公告	原則として、電子公告の方法により行い、委託会社のホームページ( <a href="https://www.fivestar-am.co.jp/">https://www.fivestar-am.co.jp/</a> )に掲載します。
運用報告書	毎年1月と7月の決算時および償還時に交付運用報告書を作成し、知れている受益者に交付します。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 配当控除、益金不算入制度の適用はありません。

あなたに最適な  
資産運用を。ファイブスター  
投信投資顧問

※ 詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご確認下さい。

AB311138-MR220131C

9/11ページ

## 日本株ロング・ショート・ストラテジー・ファンド 愛称:「とこしえ」

追加型投信/国内/株式/特殊型(ロング・ショート型)

作成基準日:2022年1月31日

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

ファイブスター投信投資顧問株式会社

## ファンドの費用

## 投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入申込日の翌営業日の基準価額に申込口数を乗じて得た額に、上限を <b>3.30%(税抜 3.0%)</b> として、販売会社が定める料率を乗じて得た額とします。 ※ 購入時手数料は、商品および関連する投資環境の説明や情報提供など、ならびに購入に関する事務コストの対価です。
信託財産留保額	1万口につき換金(解約)受付日の翌営業日の基準価額に対して <b>0.30%</b> の率を乗じて得た額を、ご換金(解約)時にご負担いただきます。

## 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬)	ファンドの日々の純資産総額に <b>年 1.155%(税抜 年 1.05%)</b> の率を乗じて得た額とします。運用管理費用は、毎計算期間末日または信託終了のときに、信託財産から支払われます。			
	当ファンドの運用管理費用 (信託報酬)(年率)	年 1.155% (税抜 年 1.05%)	運用管理費用=日々の純資産総額×信託報酬率	
	配分	委託会社	税抜 年 0.31%	委託した資金の運用の対価
		販売会社	税抜 年 0.70%	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
		受託会社	税抜 年 0.04%	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
投資対象とする投資信託証券	年 1.4738%( 税抜 年1.473%)程度			
実質的な負担※	<b>年 2.629%( 税抜 年2.523%)程度</b>			
実績報酬	<ul style="list-style-type: none"> <li>運用の実績に応じて実績報酬が発生します。</li> <li>実績報酬は、毎決算時における過去最高値の基準価額をハイウォーターマークとし、基準価額がハイウォーターマークを上回った場合、その超過額に対して5.5%(税抜5%)を乗じて算出します。</li> <li>当該実績報酬は、日次で計算され、日々の基準価額に反映されます。</li> <li>当該実績報酬は、毎決算時および信託終了のときに信託財産中より支払われます。</li> </ul> <p>※ 当該実績報酬は、委託した資金の運用の対価です</p>			
その他の費用・手数料	<p>以下の費用・手数料等は、信託財産中から支払われます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>組入価証券取引に伴う手数料(売買委託手数料、保管手数料等)</li> <li>信託財産に関する租税</li> <li>監査費用</li> <li>計理およびこれに付随する業務に係る費用</li> <li>目論見書等の作成および交付に係る費用</li> <li>運用報告書の作成および交付に係る費用</li> <li>公告に係る費用</li> <li>法律顧問および税務顧問に係る報酬および費用等</li> </ul> <p>なお、投資対象の投資信託証券においても同様の費用がかかり、当該投資信託証券の信託財産から支払われます。また、株式を売建て(ショート)するための借入れコストおよび毎月の基準価額の高値更新分に対して15%の実績報酬がかかります。</p> <p>※監査費用は、監査法人などに支払うファンドの監査に係る費用です。 ※これらの費用等は、運用の状況等により変動するため、料率、上限等を予め表示することはできません。</p>			



あなたに最適な  
資産運用を。

## 日本株ロング・ショート・ストラテジー・ファンド 愛称:「とこしえ」

追加型投信/国内/株式/特殊型(ロング・ショート型)

作成基準日:2022年1月31日

※お申込の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

ファイブスター投信投資顧問株式会社

## ファンドの関係法人

委託会社: 信託財産の運用指図等を行います。

委託会社の照会先

ファイブスター投信投資顧問株式会社

金融商品取引業者: 関東財務局長(金商)第2266号

一般社団法人投資信託協会会員 一般社団法人日本投資顧問業協会会員

ホームページアドレス

<https://www.fivestar-am.co.jp/>

お客様デスク

03-3553-8711

(受付時間:委託会社の営業日の午前9時~午後5時まで)

受託会社: 信託財産の保管・管理業務等を行います。

三井住友信託銀行株式会社

販売会社: 受益権の募集・販売の取扱い、換金(解約)事務、換金代金・収益分配金・償還金の支払い等を行います。

## 販売会社の名称等

お取り扱い 販売会社一覧		登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
今村証券株式会社	金融商品 取引業者	北陸財務局長 (金商)第3号	○			
アーク証券株式会社	金融商品 取引業者	関東財務局長 (金商)第1号	○			
あかつき証券株式会社	金融商品 取引業者	関東財務局長 (金商)第67号	○	○	○	
松井証券株式会社	金融商品 取引業者	関東財務局長 (金商)第164号	○		○	

※加入している金融商品取引業協会を○で表示しています。

※上記の表は、ファイブスター投信投資顧問株式会社が基準日時点で知りうる信頼性が高いと判断した情報等から細心の注意を払い作成したのですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。

あなたに最適な  
資産運用を。ファイブスター  
投信投資顧問

※ 詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご確認下さい。

AB311138-MR220131C

11/11ページ